⑵　試薬・試液

（略）

亜鉛（標準試薬）～酢酸試液、６mol／Ｌ　（略）

酢酸試液、１mol／Ｌ　氷酢酸12ｇ（11.5～12.4ｇ）に水を加えて溶かし、200mLとする。

酢酸試液、0.2mol／Ｌ～0.25mol／Ｌ酢酸ナトリウム塩酸混液（pH5.5）　（略）

0.25mol／Ｌ酢酸ナトリウム緩衝液（pH5.5）　酢酸ナトリウム30.02ｇ（30.015～30.024ｇ）に水約900mLを加えて溶かし、氷酢酸1.68mLをマイクロピペットを用いて加え、塩化カルシウム0.147ｇ（0.1465～0.1474ｇ）を加え、更にポリソルベート20試液１mLを全量ピペットを用いて加え、１mol／Ｌ酢酸試液又は１mol／Ｌ水酸化ナトリウム試液を用いてpHを5.5に調整した後、水を加えて1,000mLとする。

酢酸ナトリウム試液～ポリソルベート20　（略）

ポリソルベート20試液　５mLのポリソルベート20に水を加えて溶かし、50mLとする。

ポリソルベート80～レゾルシン　（略）

⑶～⑼　（略）

８　各飼料添加物の成分規格及び製造の方法等の基準

⑴～⑶　（略）

⑷　フィターゼ

フィターゼ（その１）～フィターゼ（その２の⑺）　（略）

フィターゼ（その２の⑻）

ア　製造用原体

㋐　成分規格

酵素力単位　本品は、酵素力試験を行うとき、１ｇ中に50,000フィチン酸分解力単位以上を含む。

物理的・化学的性質

①　本品は、褐色の液体である。

②　本品の懸濁液（１→100）のpHは、4.0～5.0である。

③　本品は、pH3.5～5.0において最大の酵素活性を有する。

純度試験

①　鉛　本品2.0ｇ（1.95～2.04ｇ）を量り、鉛試験法（原子吸光光度法第１法）により鉛の試験を行うとき、その量は、５μg／ｇ以下でなければならない。

②　ヒ素　フィターゼ（その１）製造用原体の純度試験②を準用する。

③　抗菌活性　フィターゼ（その１）製造用原体の純度試験③を準用する。

強熱残分　5.0％以下（0.5ｇ）

酵素力試験　フィチン酸分解力試験法第５法により試験を行う。

試料溶液の調製　本品0.25ｇを有効数字３桁まで量り、その数値を記録し、0.25mol／Ｌ酢酸ナトリウム緩衝液（pH5.5）を加えて25mLとする。この溶液を試験反応溶液と試験対照溶液の吸光度差が0.4～1.1の範囲になるように同緩衝液で希釈し、試料溶液とする。

⑵　試薬・試液

（略）

亜鉛（標準試薬）～酢酸試液、６mol／Ｌ　（略）

（新設）

酢酸試液、0.2mol／Ｌ～0.25mol／Ｌ酢酸ナトリウム塩酸混液（pH5.5）　（略）

（新設）

酢酸ナトリウム試液～ポリソルベート20　（略）

（新設）

ポリソルベート80～レゾルシン　（略）

⑶～⑼　（略）

８　各飼料添加物の成分規格及び製造の方法等の基準

⑴～⑶　（略）

⑷　フィターゼ

フィターゼ（その１）～フィターゼ（その２の⑺）　（略）

（新設）